



2025年12月期 第3四半期 決算説明・補足

M&Aにともなう“のれん”的内容と安全性について

株式会社エフ・コード | 東証グロース9211

2025.11.14



— はじめに | “のれん”とは

のれんは、M&Aの際に買収対価が被買収企業の時価純資産（資産と負債の差額）を上回る場合の差額であり、目に見えない価値に該当

のれんは下記のような貸借対照表に計上されていない「目に見えない価値（超過収益力）」を会計上、資産として認識するもの

- 企業のブランド価値・信用
- 顧客基盤や顧客リスト
- 優れた人材や組織力、ノウハウ
- 将来的な超過収益力の見込み
- 事業シナジー効果への期待

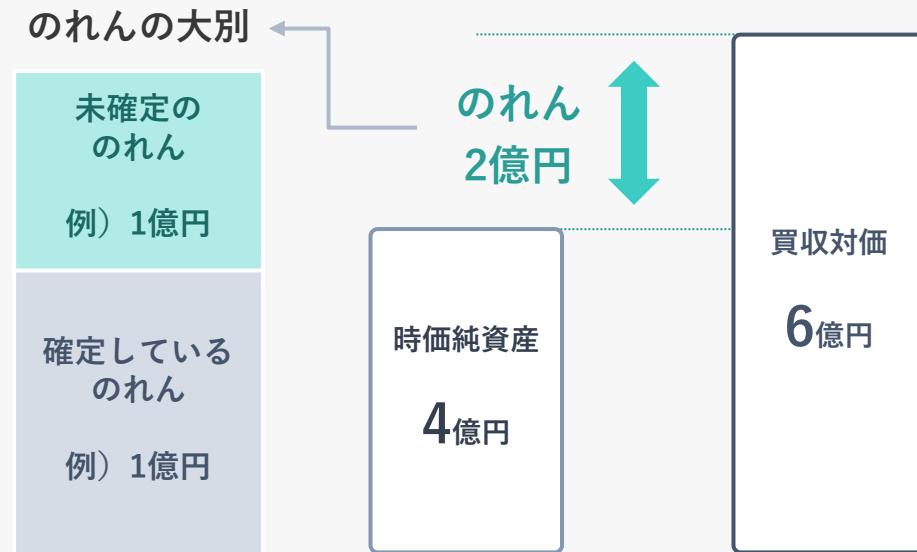


当社におけるのれんの大別

BSに計上しているのれんは、“確定しているのれん”と“未確定ののれん”に大別
“未確定ののれん”については、対象企業の業績の伸びに応じて将来的に確定

グループインした後に
業績が大きく伸びた場合に確定
(大きく伸びなかった場合は支払義務がなくなる)

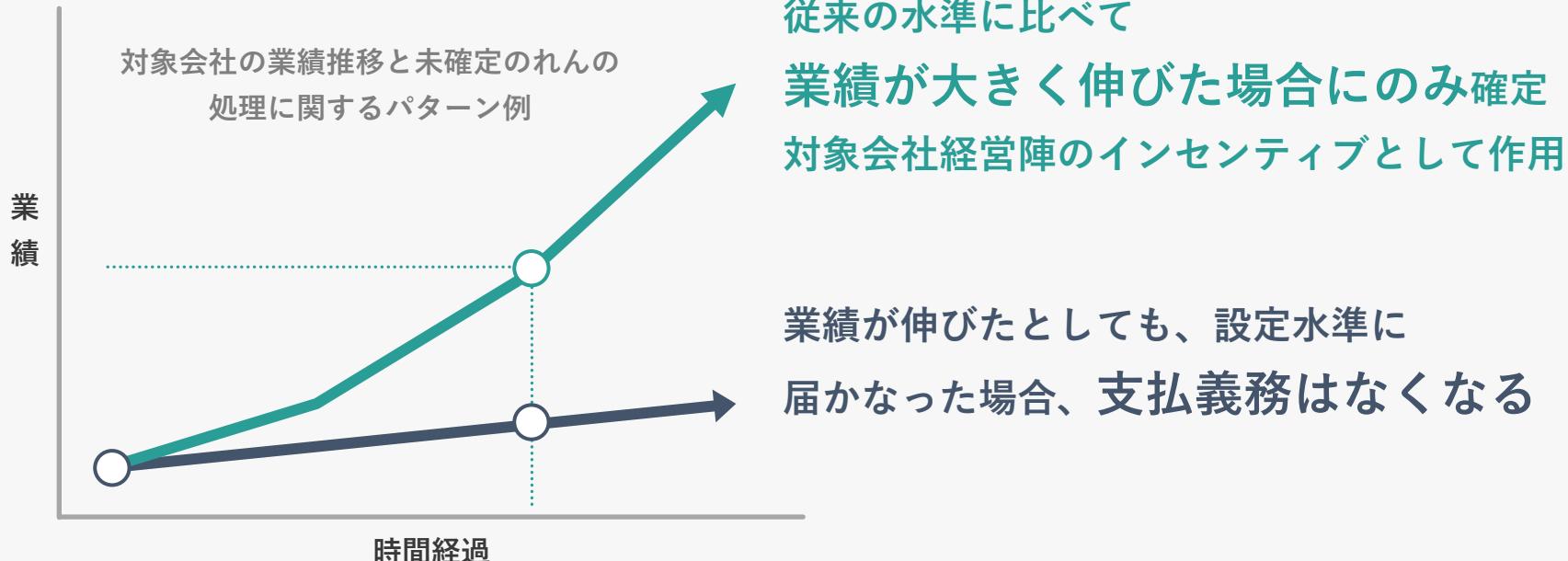
M&Aを実行した際に確定



のれんの内容と安全性 | 未確定ののれんが確定する場合・しない場合



対象会社の業績の大きな伸びによって、未確定ののれんが確定することはポジティブ
一方、業績が伸びても一定の水準に至らなかった場合、当該の未確定ののれんによる
支払い義務はなくなり、安全性は担保されている状態





のれんの内容と安全性

BSに計上しているのれんは、“確定しているのれん”と“未確定ののれん”に大別 ※1
“確定しているのれん”は全体の内約70%、直近EBITDA水準で約3.5年以内での回収見込となっており、十二分に安全性を確保できている状態

グループインした後に

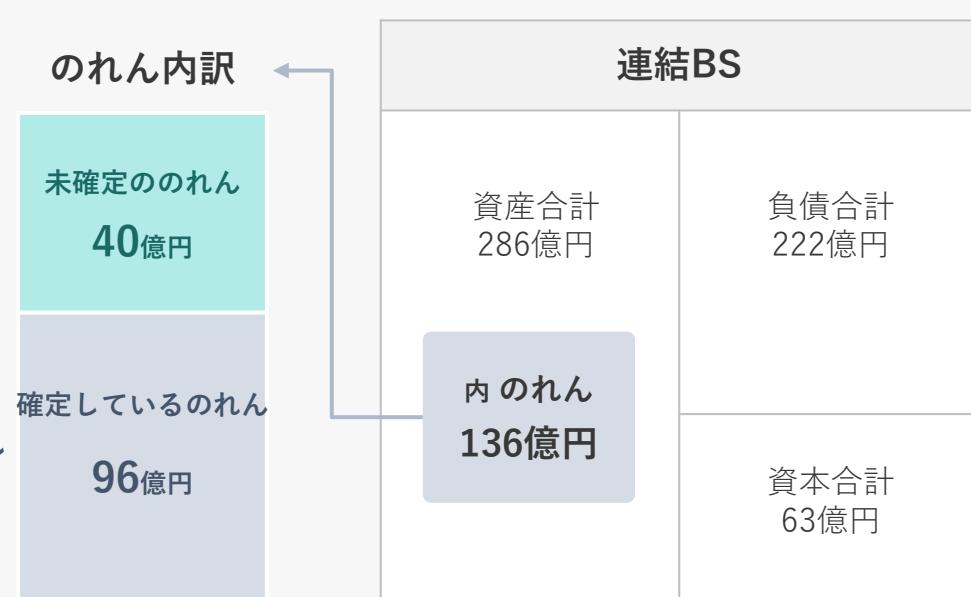
業績が大きく伸びた場合に確定

(大きく伸びなかった場合は支払義務がなくなる)

M&Aを実行した際に確定

第3四半期の年間EBITDA水準約**27億円**※2に対し

約**3.5年**での回収見込



※1： M&Aの契約上、一定の基準を超えて業績が伸びた場合にのみ追加の譲渡対価が発生する取り決めとなっており、IFRS会計上はその未確定の見積もり支払金額ものれんとして計上されることになります。

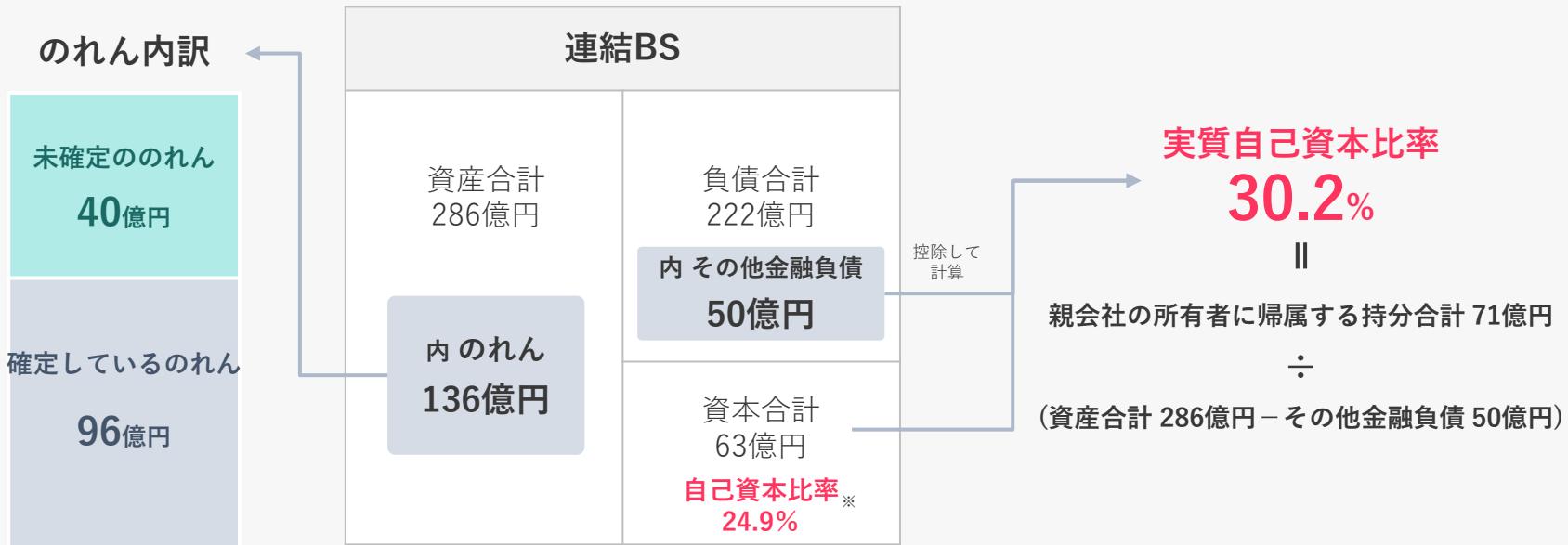
本資料では既に支払い済みの譲渡対価にかかるのれんを“確定しているのれん”、将来発生見込みの譲渡対価にかかるのれんを“未確定ののれん”と表現しております。

※2： 第3四半期会計期間におけるEBITDA 6.8億円に4を乗じた金額を年間EBITDAの足元実力値として記載しております。



のれんの内容と安全性 | 実質自己資本比率について

業績が大きく伸びた場合にのみ支払う対価として、負債に50億円を計上
当該の負債を除いた実質自己資本比率は30%を越えており財務安全性を担保



※：決算短信上の記載と合わせて、親会社所有者帰属持分比率を記載しております。

具体的には親会社の所有者に帰属する持分合計71億円を資産合計286億円で除した比率を記載しております。



— 本資料の取り扱いについて

本資料には、将来の見通しに関する記述が含まれています。これら将来の見通しに関する記述は、当該記述を作成した時点における情報に基づいて作成されています。これらの記述は、将来の結果や業績を保証するものではありません。このような将来予測に関する記述には、必ずしも既知および未知のリスクや不確実性が含まれており、その結果、将来の実際の業績や財務状況は、将来予想に関する記述によって明示的または默示的に示された将来の業績や結果の予測とは大きく異なる可能性があります。

上記の実際の結果に影響を与える要因としては、国内および国際的な経済状況の変化や、当社が事業を展開する業界の動向などが含まれますが、これらに限られるものではありません。

また、当社以外の事項・組織に関する情報は、一般に公開されている情報に基づいており、当社はそのような一般に公開されている情報の正確性や適切性を検証しておらず、保証しておりません。